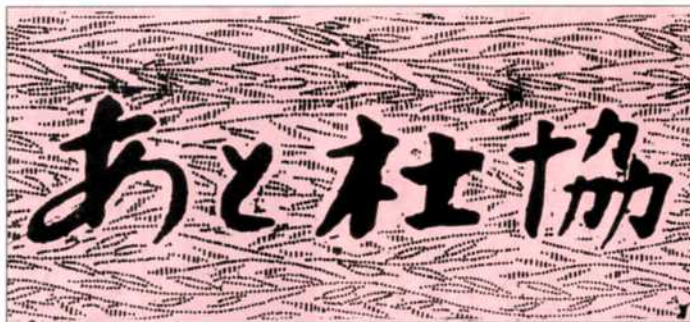




会報第120号

平成24年2月20日発行

阿戸地区社会
福祉協議会
広島市阿戸福祉センター内
電話 856-0294

阿戸町の世帯・人口

世帯数	952戸
人口	2,358人
男	1,162人
女	1,196人

(平成24年1月末現在)

新年にあたって

阿戸地区社会福祉協議会 会長 松田 康憲

昨年は、忘れることのできない年となりましたが、今年こそは良い年であることを願っております。

さて、阿戸町も少子、高齢、人口減社会に向かっております。これに対応するためにも昨年四月、新たな取り組みとして四つ

の部会を設置し、理事・評議員・ボランティア等の参加を得て、みんなで阿戸の福祉を支えていくことといたしました。

おかげで部会の中では、それぞれの立場から活発な意見、アイデアが出され、新しい発想も取り入れながら事業を推進していくことが出来ており、大変喜んでいるところです。これも皆様方のご協力のおかげであり感謝申し上げます。

こうした中であって、今年は二十三年度実施した事業の反省点や町民の皆様の意見等を反映した新たな事業も計画したいと考えております。

今後とも、お互いが助け合い、支え合い、ふれ合い、子どもから高齢者までぬくもりのある阿戸町を目指していくことが重要であると思っております。

今年も皆様方のご指導、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2012年元旦、今年も「阿戸町駅伝大会」が開催されました。各町内会から選抜された7チームの選手が新春の阿戸町を駆け抜けました。



2012年元旦、今年も「阿戸町駅伝大会」が開催されました。各町内会から選抜された7チームの選手が新春の阿戸町を駆け抜けました。

福祉活動勉強会に

参加して

地域福祉部会

景山 香葉

十月二十一日、社協役員（理事・評議員・幹事）を対象とした勉強会が開催されました。

講師に「あと会」の近藤弘美様をお招きし、福祉現場での数々の経験を基に、福祉の状況

やあり方について、お話をいただきました。

福祉活動とは、自分自身がより生活しやすい生活を送れるようにする為の活動です。この活動を通して、住民一人ひとりの豊かな暮らしを実現させる為に、支え・支え合いの町を目指していきたいものです。

最後に勉強会で、認知症の母の心をうたった詩が紹介されました。

「お菓子でもどーぞと差し出せば あんたあ食べたかと気遣う母娘の私に どこから来んさったかと聞く程なのに 母の心が優しさにあふれていることこのことに娘であることを 誇りに思う。」

この詩にうたわれてるように無償の愛・心で一人ひとりに接することこそ福祉の原点ではないでしょうか。



中学二年生と

高齢者のしめ飾りづくり

児童・障がい児者部会

景山 子

平成二十三年も暮れに近い十二月十五日、福祉センターにおいて、中学二年生と高齢者との「ふれ合いしめ飾りづくり」を実施しました。何かと気ぜわしい時期に、老人クラブをはじめ、民児協・ボランティアグループ等の皆さんのご協力をいただきました。

加えて、十二月十三日に予め、手はずの練習・確認をしたうえで、本番に臨んでいただきました。感謝申し上げます。

おかげさまで中学生や先生及び保護者の方々の評判もよく、それぞれの家庭の玄関先を立派に飾り、輝かしい新年を迎えられたことと思います。



阿戸中学校二年

不藤 江南

私ははじめてしめ飾り作りを体験しました。地域の高齢者の方と一緒に作りました。

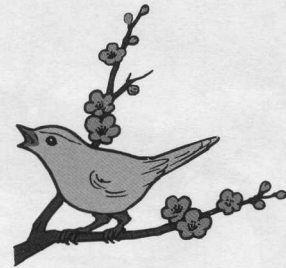
初めはわらを四十本ずつに分けました。四十本ずつに分けたものをわらで仮止めをした後、アンコをいれました。

アンコを見た時はとても驚きました。「縄に使うわらから取って作ったんだよ」と地域の方はおっしゃいました。実際に縄に使うわらとアンコを比べてみるとアンコのまわりが

でも柔らかく、縄に使うわらはとても固かったです。同じわらなのにこんなに違うんだと思いました。

縄を作る時とても力が入るのでとても疲れました。地域の方に「顔がほんのり赤いよ」と言われました。

しめ飾り作りは大変だけど、地域の高齢者の方々とふれあえて良かったと思います。正月に私の作ったしめ飾りを飾るのでしめ飾り作りを体験して本当に良かったと思います。



阿戸中学校二年

沖本 汐莉奈

五・六時間目に地域の方としめ飾りを作りました。

是松君といっしょに教えてもらいました。教えてくださった方は、先生だったので、あまり作ることができなかったけど、とてもわかりやすい説明を下しました。

最初に少しねじった方がいいとか、アンコが出ないように気をつけるとか、根のところをきれいに合わせてからねじりはじめるとか、アンコの先や縄の先はななめに切るとか、少しとび出たわらはきれいに切るなどいろいろなることを教えていただきました。

他にも、東北や九州では、しめ飾りの作り方はちがうということ、広島でも福山の方は少しちがうことも教えてもらいました。

最後に、かわいい飾りをつけてもらいました。ダイダイをつける時は、赤と白のひもでつけてもらいました。とてもうれしかったです。しめ飾りはとても力がかかることがわかりました。折尾さんのおかげでいいしめ飾り

中学三年生と高齢者との交流会

児童・障がい児者部会

松田 英子

深秋の十一月十六日、老人会・ほこり会・民児協等の協力を得て、中学三年生と高齢者との交流会を開催しました。今回の交流会の特徴は、福祉センターホールを五テープルに分け、ホールまでの案内、

お茶の接待、司会、進行等と全て生徒達が責任を持ち、交流を図ったことです。自己紹介から始まり、昔話から現在の出来事まで、話に花が咲き、生徒達は高齢者の方の話に目を輝かせ、高齢者の方は、生徒達から元気なパワーをもらい、充実した交流会となりました。

阿戸中学校三年

坂口 美樹

高齢者との交流会がありました。あまり関わることもない高齢者の方たちとたくさんのお話ができるので楽しかったです。

まず最初に「学生時代はどうでしたか？」という質問では、戦争の話が中心になりました。私はその質問で戦争の話がでるとは思いませんでした。今とすごく違いすぎてびっくりしました。空襲警報などがあり、こわいなあと感じました。制服もセーラー服が三角エリになったことも知りました。今は平和だけど高齢者の方の学生時代は危険だと思いました。次に「幸せな事は何ですか？」という質問には、「人それぞれだよねえ」とおっしゃいました。私は平和

なことだと思っています。前の答えを聞き、そう思いました。

この交流を通して、昔の事など色々な事を知り、地域の方と関わりを持てたので良かったです。

阿戸中学校三年

廣津 彩

高齢者との交流会がありました。予定より多くの人が来て下さいました。

まず最初に開会式で「流浪の民」を歌いました。その後、班にわかれて交流会を始めました。最初に村山くんが外国で行きたいところがあるかと聞いたところ、いろいろな所に行ったことがある人もいたりして、そこから話が一歩盛り上がりました。息子さん達がハンバーグでお腹が痛

くなったらしく、それから今もずっとハンバーグが食べられないという話も聞きました。他にも、一番楽しかったことの話になって、結局は一番苦労した時が一番楽しかったそうです。勉強をしつかりやったほうが良いと言われました。

高齢者の方と交流をしているんなことが聞けたりしてすごく楽しかったです。

阿戸中学校三年

行武しおり

高齢者交流をやって知らなかったことや、名言みたいなのを教えてもらってとても楽しかったです。

高齢者の方たちの案内をして、合唱をしました。この時は、ピアノをあまり失敗せずにできてとてもうれしかったです。

その後、班にわかれて話をしました。私たちと高齢者の方たちの自己紹介が終わり、質問をたくさんしました。昔の阿戸の話聞かせてもらった時、昔の子どもたちは、自分たちで遊ぶを決めていたり、朝から夕方まで帰らなくても親に怒られなかったなどという、今ではしないようなびっくりする話をたくさん聞かせてもらいました。他にも、恋は人生を変ええるという話をしてもらい、とてもためになりました。

高齢者交流でいろんな話を聞かせてもらってとてもおもしろかったです。

配食サービスについて

高齢者・ボランティア部会

京才小夜子

「こんにちは おげんきですか」の声をかけながらの配食サービス。手作りのお弁当を持つての訪問です。阿戸地区社協の見守りの一環として始めて二十六年になります。病弱な一人・二人暮らしのお年寄りに月

一回訪問し安否の確認と心のふれあいを深めています。お弁当も旬のものを入れ、やわらかめに食べやすくし、温かいうちに食べてもらえるようにしています。

最初に伺った頃は、耳が聞こえにくくて無口だったおばあちゃん。今は楽しく話をしてくださいます。足が悪くて部屋に閉じこもっておられた人だつたが、訪問するたびに玄関まで出られるようになり、今は庭に出て好きな花を楽しむこともできるようになりました。会話ははずみます。「今日は顔色いいね」と言うともう来られる頃じゃ思うて化粧して待ってたんだよ」と迎えてくださる。いろいろな出会いがあり、私たちを待ってくださると思うと、何よりも嬉しく励みになり、また教えてもらうことも多く勉強になります。

住み慣れた地域で暮らしていきたい。誰もの願いに少しでも手を差し伸べることができればと思っています。共に生き生きと生きて行きたいと思っています。



